

教職実践開発研究科(教職実践開発専攻)の三つのポリシー 【 教職修士(専門職) 】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)	研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的
本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。	本研究科は、学校内や地域の教育活動を俯瞰する広い視野と学校が抱える今日の教育課題に対応できる高度な実践力・新たな学びをデザインする力を有し、生涯にわたって学び続ける姿勢をもった教員の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 本研究科は、学校内や地域の教育活動を俯瞰する広い視野と学校が抱える今日の課題に対応できる高度な実践力・新たな学びをデザインする力を有し、生涯にわたって学び続ける姿勢をもった教員の養成を目的としている。</p> <p>本研究科では、この目的に基づいて、幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな学びを創り出す能力を身に付け、本研究科が示す学修成果を上げた者に学位を授与する。なお、その身に付ける能力を以下のとおり示す。</p> <p>1. 学校の中核的な存在として自ら課題を発見し、実践を深く省察し、改善策を提案、それに向けた学校全体の取り組みを牽引する力を身に付けている。 2. 今日の教育課題への取組を含む学校における教育実践の基盤となる教育の方法及び指導の技術に関する深い理解と高度な教育実践力を身に付けている。</p>	<p>【教育課程編成方針】 本研究科では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。授業は講義・演習・実験・実習・実技の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p> <p>【教育課程実施方針】 本研究科の教育課程は、「共通科目」、「現場が求める教員の資質・能力に関する科目」、「実習科目」及び「省察科目」の4つの科目区分で構成する。 ・「共通科目」では、主に今日の教育課題について学ぶことによって学校教育全体を俯瞰する力を養う。 ・「現場が求める教員の資質・能力に関する科目」では、富山県において特に必要とされる教育の方法・指導技術に関する高い実践力を身に付ける。 ・「実習科目」では、他の授業で学んだことを学校現場で再確認しつつ現場でしか分からないことを経験することによって、理論と実践の往還による実践力の涵養を確かなものにする。 ・「省察科目」では、教職大学院での学びの集大成として、授業での学びや学校実習での体験を体系的に結び付け、自らの教育実践を省察するとともに、教育現場に還元できる提案を行うことを目指す。</p>	<p>【入学受入れの方針】 本研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)に基づき、教職分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとするとともに、学校現場が抱える今日の教育課題について深く理解し、高度な専門性と実践力、高い課題解決力を備え、スクールリーダーをめざす意欲を備えている者を受け入れる。 特に派遣教員学生や社会人学生については、次の2つの力の修得をめざす者を受け入れる。 ・学校の中核的な存在として課題を自ら発見し、解決策を提案、それに向けた学校全体の取組を牽引する力 ・今日の教育課題への取組を含む学校における教育実践の基盤となる教育の方法及び指導技術に関する深い理解と高度な実践力 また、学部新卒学生については、次の2つの力の修得を目指す者を受け入れる。 ・教育の方法及び指導技術に関する確かな基礎と優れた実践力 ・今日の教育課題と学校の中で自らが果たすべき役割と責任を理解し、学校教育全体を俯瞰しながら、若手教員の中でリーダー的役割を果たす力 そのため入学受入れの基本方針として、複数の受験機会や多様な学生の能力を評価できる入試を提供する。</p> <p>【入学受入れの基本方針(入試種別とその評価方法)】 派遣教員入試では、口述試験を課し、教職分野についての強い関心と基礎的能力を有しているかを評価する。 一般入試では、小論文試験及び口述試験を課し、教職分野についての強い関心と基礎的能力を有しているかを評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>【学修成果】 学校内や地域の教育活動全体を俯瞰する能力と、チーム学校を牽引していくスクールリーダーに必要な基礎的な能力を身に付けている。 授業のねらいに迫るための指導計画作成と指導を実践できる力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 コミュニケーション力、人間関係形成力、同僚とチームで対応できる力、子ども理解力、学習指導力、生徒指導力、学級経営力</p>	<p>【学修内容】 共通科目(「教育課程の編成・実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導、教育相談に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」)及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」の科目を通して、学校内や地域の教育活動全体を俯瞰する能力、チーム学校を牽引していくスクールリーダーに必要な基礎的な能力、授業のねらいに迫るための指導計画作成と指導を実践できる力を修得する。</p> <p>【学修方法】 文献講読や演習等を通して、幅広く実践に活かす基礎知識を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポートやプレゼンテーション、期末試験等によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 基礎的・基本的な知識を備え、今日の教育課題も把握して、学校現場や実践についての深い分析と新たな課題を発見する能力を有し、有用な情報や知識を収集して協同で課題解決に取り組むことができる。</p>
<p>【学修成果】 学校現場が抱える今日の教育課題の深い理解と、自らの専門性を一層向上させ同僚と協力して、課題に対応し改善を実践できる能力を身に付けている。 個に応じた指導を計画、実践、考察、改善できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 課題解決力、教育実践力、応用力、同僚を牽引していけるリーダーシップ、学年経営力、学校経営力、教育課程経営力</p>	<p>【学修内容】 「授業づくり・授業改善に関する領域」、「教育課題対応・マネジメントに関する領域」の科目を通して、学校現場が抱える今日の教育課題の深く理解し、自らの教科教育法の専門性を高め、同僚と協力して課題に対応し改善を実践できる能力及び個に応じた指導を計画・実践・考察・改善できる能力を修得する。</p> <p>【学修方法】 文献講読や演習等を通して、幅広く基礎知識を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポートやプレゼンテーション、期末試験等によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 文部科学省中教審の答申や、学習指導要領についてのキーとなる考え方や方針を理解し、深い洞察と実現に向けての実践力を有する。</p>
<p>【学修成果】 教育や研究倫理に関する規範意識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教育に携わる者としての高い倫理観と責任感 学校に関する研究・教育倫理の高次元の規範意識の修得</p>	<p>【学修内容】 学校現場での実習を通して、教育や研究倫理に関する規範意識を改めて認識する。</p> <p>【学修方法】 実習を通して、幅広く基礎知識を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポートやプレゼンテーション、期末試験等によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 弱者や問題を抱える人々に対しても固定観念をもちがずに心情に寄り添い、その言に真摯に耳を傾け、共感と理解を示しながら、共に問題を解決していこうとする姿勢と態度を有する。</p>
<p>【学修成果】 学校内の同僚と共に、専門性に基づいた深い分析力や課題解決力を活かし組織としての教育力、企画力、実践力の向上のために、リーダー的役割を果たすことができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教育における高度な専門性、分析力、学校運営上の企画調整力</p>	<p>【学修内容】 省察科目を通して、学校内の同僚と共に組織としての教育力、企画力、実践力の向上のために、リーダー的役割を果たすことができる能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 省察や演習等を通して、幅広く基礎知識を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポートやプレゼンテーション、期末試験等によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 クリティカル・シンキングが可能で、既存の知識や実践に固執せず、他者の異なる意見にも真摯に耳を傾け、仲間(同僚や上司)を巻き込みながら協同で、問題の解決ができる。</p>